

### 遺伝子改変動物を用いた中期発がん性試験の評価状況

(令和3年度第2回発がん性評価ワーキンググループまで)

物質名	試験結果		報告年度		評価年度		評価結果	選定理由	
4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール	p53K0マウス	雄	発がん性を示す証拠は得られなかった。 (no evidence of carcinogenic activity)	平成31 ／ 令和1	2019	令和2	2020	陽性	肝臓への標的性がなく、他の臓器への標的性が疑われる化学物質（肝中期発がん性試験において、多臓器への標的性が疑われる化学物質）
		雌	発がん性を示す証拠は得られなかった。 (no evidence of carcinogenic activity)						
	rasH2マウス	雄	発がん性を示す証拠が得られた (some evidence of carcinogenic activity)	平成30	2018				
		雌	発がん性を示す証拠は得られなかった (no evidence of carcinogenic activity)						
二酸化窒素	p53K0マウス	雄	発がん性を示す不確実な証拠が得られた。 (equivocal evidence of carcinogenic activity)	平成31 ／ 令和1	2019	令和2	2020	陽性	経口ばく露による調査が不能なガス状の化学物質（気体として、労働環境にあり、吸入ばく露による発がん性を評価すべき化学物質）
		雌	発がん性を示す証拠は得られなかった。 (no evidence of carcinogenic activity)						
	rasH2マウス	雄	発がん性を示す不確実な証拠が得られた。 (equivocal evidence of carcinogenic activity)	平成31 ／ 令和1	2019				
		雌	発がん性を示す証拠は得られなかった。 (no evidence of carcinogenic activity)						
1,3,5-トリリス(2,3-エポキシプロピル)ヘキサヒドロ-1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン	p53K0マウス	雄	発がん性を示す明らかな証拠が得られた。 (clear evidence of carcinogenic activity)	令和2	2020	令和3	2021	陽性	肝臓への標的性がなく、他の臓器への標的性が疑われる化学物質（肝中期発がん性試験において、多臓器への標的性が疑われる化学物質）
		雌	発がん性を示す明らかな証拠が得られた。 (clear evidence of carcinogenic activity)						
	rasH2マウス	雄	発がん性を示す明らかな証拠が得られた。 (clear evidence of carcinogenic activity)	平成31 ／ 令和1	2019				
		雌	発がん性を示す明らかな証拠が得られた。 (clear evidence of carcinogenic activity)						
クロロエタン	p53K0マウス	雄	発がん性を示す証拠は得られなかった。 (no evidence of carcinogenic activity)	令和3	2021	令和3	2021	陽性	経口ばく露による調査が不能なガス状の化学物質（気体として、労働環境にあり、吸入ばく露による発がん性を評価すべき化学物質）
		雌	発がん性を示す証拠は得られなかった。 (no evidence of carcinogenic activity)						
	rasH2マウス	雄	発がん性を示す明らかな証拠が得られた。 (clear evidence of carcinogenic activity)	令和3	2021				
		雌	発がん性を示す不確実な証拠が得られた。 (equivocal evidence of carcinogenic activity)						